

2007年8月4日(土)

東京大学駒場キャンパス 18号館4階コラボレーション・ルーム(2)

平成19-21年度 科学研究費補助金・基盤研究(B)

中近世のキリスト教会と民衆宗教

2007年度 第1回研究会 近世中南米のキリスト教

報告要旨

フロンティアにおける宣教活動
- スペイン統治期パラグアイの事例 -

武田和久
上智大学イベロアメリカ研究所

1492年、新世界の「発見」という前代未聞の出来事に遭遇しながらも、これに対するスペイン王権の対応は極めて迅速だった。カトリック両王ことフェルナンドとイサベラは、翌93年に新世界の住民のキリスト教化を条件に新たに発見された土地の領有を認める旨の教書を時のローマ教皇から取りつけると

(5月3日)、第二次航海の準備を進めるコロンブスに宣教師の同行を速やかに命じた(5月29日)。1494年には制海権を争うライバル国ポルトガルとトルデシーリャス条約を締結し、アフリカ大陸西岸のカーボヴェルデ諸島から西の地点に縦に境界線を引き、線から東の陸地がポルトガルに、西側のそれがスペインに属することで両国は合意した。

新世界の住民のキリスト教化を効率よく進めるためにローマ教皇がスペイン国王に委譲したのが、パトロナート・レアルと呼ばれる宣教関連の諸権利である。パトロナート・レアルを委譲されたスペイン国王は、新世界における教区の設定、聖職者の日常生活の監督、聖祿の授与、税金の徴収とその使い道などを自由に決めることができるようになった。すなわち国王は、新世界において聖俗両方の面で絶大な権限を掌握すると共に、同地でのキリスト教布教には彼の意向が色濃く反映されるようになったのである。1511年から77年にかけてのスペイン領アメリカ各地での司教区ならびに大司教区の矢継ぎ早の設置は、ローマ教皇より託された責務を果たそうという国王の熱意と、領土的野心双方の表れとみなせる。

新世界の住民のキリスト教化に重要な役割を果たしたのが修道士である。彼らはドミニコ会、フランシスコ会、メルセス会、アウグスティヌス会、カプチン会、イエズス会など、修道会に属する国際的な聖職者集団であり、国籍や出自を異にする者たちが「異教徒の改宗」という共通の目標を掲げ、会ごとに定められた方針に沿って活動を展開した。つまり修道士たちは、植民地という宗主国スペインの政治的思惑が色濃く反映される特異な空間にいらながらも、その影響を直接的には受けない自立した存在に他ならなかった。

スペイン国王とその側近たちは、新世界における布教の担い手である修道士にある種の不満を抱いていた。前述のとおり自立性が高く国籍も様々なためスペイン植民地政策に必ずしも迎合的ではないことから、アメリカ先住民の非人間的な境遇の改善を求めて王権の諸政策を批判する者が少なくなかったからで

ある。これについては、例えば征服戦争の全面中止や先住民に対する強制労働の禁止を生涯にわたり訴え続けたドミニコ会士バルトロメ・デ・ラス・カサスの一連の活動を想起すればよい。

植民地政策を批判しがちな修道士に対するスペイン国王とその側近たちの心境は複雑だったが、新世界の住民のキリスト教化というローマ教皇から課せられた責務は彼らの助力なしでは果たせない。従って国王は、コロンブスによるアメリカの「発見」当初から修道士の活動を支援すると共に、彼らの批判に真摯に耳を傾けた。

だが 16 世紀後半、フェリーペ 2 世が国王に即位すると事態は一変する。1560 年 8 月、国王はスペイン領アメリカ全域の大司教と司教に対して、聖職に携わる者が植民地政策について議論することを禁じ、信仰生活や布教活動のみに専念するよう命じたのである。

修道士の植民地政策への関与に深い懸念を示したフェリーペ 2 世だったが、彼らに代わりアメリカ先住民の改宗を担う者が存在しないことはすでに述べた通りである。広大なスペイン領アメリカには 16 世紀後半に至ってもなお手つかずのフロンティア（辺境地帯）が随所に存在し、土地の開拓ならびに先住民のキリスト教化が急がれていた。また同時期のスペインで制定された入植基本法により、フロンティアで暮らす先住民たちを軍事征服した後にキリスト教に改宗させることは王権の方針にそぐわないものとなった。つまり王権は、植民地政策に協力的であり、かつフロンティアでの布教活動に積極的な聖職者集団を待望していたのだが、このような条件を満たしたのが若い修道会イエズス会だった。

周知の通りイエズス会は、スペイン北部バスク地方出身の貴族・軍人のイグナティウス・デ・ロヨラとその同志が 1534 年にパリ北部のモンマルトルで結成した修道会であり、40 年に時のローマ教皇により正式に認可された。1565 年 7 月 2 日にスペインの貴族家系出身のフランシスコ・デ・ボルハが第 3 代総長に就任すると、フェリーペ 2 世の強い要請を受けたこともあり、スペイン領アメリカ各地への会員の派遣が始まった。

初期イエズス会の行動理念はスペイン王権の植民地政策を補完する要素を多分に含んでいた。(1) 宣教活動を異教徒への旅とみなして世界各地に赴く心構え、(2) 自己の魂に加えて他者の魂の救済の重視、(3) 身分、性、貧富の差などを越えた万人への普遍的な宣教など、いずれも前人未踏の地へ率先して出かけてキリスト教の布教に取り組む姿勢を示したものであり、広大なフロンティアの開拓ならびに同地の先住民の改宗を急ぐスペイン王権の意図に合致した。またスペイン領アメリカ各地で活動する特にスペイン系イエズス会士の中に、植民地政策とキリスト教布教の両立が可能とする 16 世紀スペインの知識人たちが提起した理論に傾倒する者が少なからず存在したことも、イエズス会の宣教活動がスペインの植民地政策との関連を強化する一因となった。その傾倒者の代表的な人物が、16 世紀後半にペルー管区長を務め、第三回リマ教会会議で中心的な役割を果たしたホセ・デ・アコスタだった。

アコスタはその名著『インディアス布教論』（1576 年に執筆開始、88 年にセビリヤで出版）の中で、(1) 教会と国家の連携強化、(2) 新世界に対する

スペイン国王の支配権・統治権の確立、(3) 好戦的な先住民に対しての武力を伴った宣教方法などを随所で強調すると共に、先住民の改宗に際してはレドゥクシオンと呼ばれる集住政策が最も効率的と説いた。

レドゥクシオンとは、元々は効率的な先住民の改宗と彼らからの税金徴収を目的として、スペイン人の入植当初からスペイン領アメリカ各地で行われていた植民地政策の一つである。従って決してイエズス会特有の宣教方法というわけではない。しかしこのレドゥクシオンという集住政策がイエズス会士によりスペイン領アメリカ各地で大々的に導入された結果、集住政策の実践の場である布教区そのものがレドゥクシオンと呼ばれるようになり、また後世この集住政策が、イエズス会により独自に生み出された画期的な宣教方法という誤解が生じるほど、イエズス会とレドゥクシオンの結びつきが深まったのである。

アコスタによりその重要性が強く指摘された集住政策レドゥクシオンは、現在のペルー南東とボリビア北西にまたがるティティカカ湖南西部フリと呼ばれる一帯で1576年11月より大規模に展開された。周辺地域からフリに設けられた布教区へと集められた先住民たちは、税金の一部免除という特権の享受と引き換えに、ヨーロッパの伝統や様式に則した生活を営む一方、ポトシ銀山での定期労働に従事した。銀山での先住民の一定限度の労働は、スペイン植民地体制とキリスト教布教の両立を前提とするアコスタにとっては許容の範囲内だった。

17世紀初頭、フリにおけるレドゥクシオンの実践はそのはるか南東に位置するパラグアイでの布教区の運営に直に導入された。フリでの活動経験のあるディエゴ・デ・トーレスが1604年に創設されたパラグアイ管区の初代管区長に就任すると、フリと類似した構造を持つ布教区の建設が矢継ぎ早に始まり、同地の先住民グアラニーの集住と改宗が進められた。メキシコやペルーと異なり貴金属が産出されないことからスペイン人入植者の関心の外にあったパラグアイは、まさに手つかずのフロンティアに他ならなかった。またポルトガル領ブラジルと境界を接することから、パラグアイへのポルトガル人の度重なる侵入がスペイン王権の大きな悩みの種となっていた。このようなパラグアイで布教区を建設して先住民との共同生活を始めるイエズス会士たちの活動は、同地の開拓にもつながり、ポルトガル人をはじめ外国人の侵入を強く警戒するスペイン王権にとっても極めて有益だった。

16世紀後半以降スペイン人の大規模な入植の見込みがほとんどなく、またポルトガル領ブラジルと隣接するという諸条件を鑑みて多元的なフロンティアと言えるパラグアイでの布教活動は、このフロンティア的な特質に否応なく左右された。パラグアイ北東部グアイラ地方で布教区が次々と建設されていた1620年代末、バンデイランテと呼ばれるポルトガル人主体の奴隷狩り部隊の襲撃が頻発した。グアイラ地方の布教区は30年から31年にかけて壊滅し、生き残った者も南東部への移住を余儀なくされた。1633年、パラグアイのイエズス会士たちは銃器を用いてバンデイランテに挑戦することを本格的に議論するようになり、実戦経験のある会士の指導の下、グアラニー先住民を対象とした軍事訓練が始まった。当初は会員が武器一般を含む銃器の製造や管理に深く関わることに反対だった第6代総長ムツイオ・ヴィテレスキだったが、1637年にはこの

関わりを認め、40年には特例としてスペイン国王の認可も取りつけた。こうして1641年、バンデイランテとイエズス会士指揮下の銃器武装したグアラニー先住民との戦いがパラグアイ南東のムボロレー川の河畔で勃発した。結果は後者の大勝利に終わった。

ムボロレーの戦いにおけるグアラニー先住民の大勝利は、スペイン国王フェリーペ4世の耳にも届いた。1642年11月21日、国王は勅令を発し、兵力の不足を補うために銃器武装させたグアラニー先住民をスペイン・ポルトガル両国の領土境界線付近の防衛にあたらせる考えを明らかにした。

国王の考えに対するパラグアイのイエズス会士の動きは迅速だった。彼らは国王の意向を尊重する代わりに布教区の運営に必要な王権の保護、またグアラニー先住民に対する減税・免税措置の認可を要求した。こうしてグアラニー先住民のパラグアイ各地への派遣が頻発する事態が生じた。1644年から1704年までの派遣数は分かっているだけでもおよそ30に達し、毎回数百人、時には数千人が動員された。しかもこの派遣にはポルトガル人との戦いとは直接関係のない好戦的な先住民の平定やスペイン人が暮らす都市の防備などが含まれることが多々あった。

グアラニー先住民の大規模な派遣が要請され始める17世紀末、布教区では軍事関連の命令、指令、規定などが頻繁に出されるようになった。例えば銃器の管理方法や軍事訓練の内容に関するパラグアイ管区長の事細かな指示をみると、布教区の生活がこの時期に急速に軍事的な要素を帯びていったことがわかる。また同時期にパラグアイで活動したあるイエズス会士の手記をみると、軍務に携わる自身の姿を細かく描写したり、会の創始者ロヨラの軍人としての経歴をパラグアイにおける自分たちの活動と重ね合わせて称賛する箇所が目につく。

これまでみてきた本発表の内容をまとめると次の三点に集約できる。

第一に植民地体制と宣教活動との補完関係である。言うまでもなくスペイン領アメリカにおける宣教活動は植民地体制の下で展開した。そして宣教師たちも、自分たちの活動の進展のためには、植民地体制を補完するかたちで活動しなければならなかった。このような植民地体制という前提をいち早く認識してスペイン領アメリカで活動したのがイエズス会だった。ただしこれは、彼らをあくまでも総体的に捉えた結果だということを付言しておかねばならない。本発表では言及できなかったが、イエズス会の活動が時としてスペイン植民地体制に反することがあったからである。このことは、イエズス会が植民地体制に迎合するのみならず、修道会独自の方針に沿って活動を展開していたことの証左と言える。

第二にフロンティアでの布教活動を望むイエズス会の行動理念とスペイン王権の思惑との合致である。メキシコやペルーの征服を経てスペインはその海外領土に植民地体制を徐々に確立していったが、同地には手つかずの広大なフロンティアが存在し、ポルトガルをはじめスペインのライバル国が侵出の機会を狙っていた。この時フロンティアでの活動を重視するイエズス会はスペイン王権により有益な宣教集団とみなされ、特にホセ・デ・アコスタが推進する集住政策レドゥクシオンならびに同政策実践の場である布教区は、先住民のキリス

ト教化および未開拓地の開拓という観点から王権の期待に応えるものだった。

第三にパラグアイのフロンティア的特質が同地でのイエズス会宣教師の布教活動に与えた諸影響である。広大なスペイン領アメリカの中でもパラグアイは政治、経済、社会的な観点からみて多元性に富むフロンティアであり、特に同地がポルトガル領ブラジルと隣接するという地理的条件は、パラグアイにおけるイエズス会の宣教活動を左右する決定要因となった。奴隷狩り部隊バンデイランテの襲撃に対する自衛手段として17世紀前半に布教区に導入された銃器が、以後18世紀にかけてスペイン領の防衛をはじめ様々な目的に使われ始め、またパラグアイのイエズス会布教区ならびに会士自身が軍事的な色彩を次第に強めていったことには、植民地体制の強化と維持に宣教師を活用しようとするスペイン王権の思惑、植民地体制を補完するかたちでの活動の展開に踏み切ったイエズス会の決断、そしてパラグアイという地域が有するフロンティア的特質などの諸要因が関連していたと言える。

主要参考文献

1. 未刊史料

BNE (Biblioteca Nacional de España), Madrid, España.

“Cartas de los PP. Generales de la Compañía de Jesús y de varios Provinciales sobre las Misiones del Paraguay, 16 de julio de 1623 a 19 de septiembre de 1754,” MSS. 6976.

2. 既刊史料

ANA (Archivo de la Nación Argentina) (ed.), *Época colonial: reales cédulas y provisiones, 1517-1662*, Vol. 1, Buenos Aires: Archivo de la Nación Argentina, 1911.

Calvo, Carlos (ed.), *Colección completa de los tratados, convenciones, capitulaciones, armisticios y otros actos diplomáticos y políticos de todos los estados de la América Latina ...*, Vol. 1, Vaduz: Topos Verlag, 1978 [1862-69].

“Cédula Real, 1642,” Hernández, *Organización*, Vol. 1, 525-526.

Colección de documentos inéditos relativos al descubrimiento, conquista y organización de las antiguas posesiones españolas de América y Oceanía, sacados de los Archivos de Reino, y muy especialmente del de Indias, Vols. 8 y 16, Madrid: Imprenta del Hospicio e Imprenta de Frias y Compañía, 1867 y 1871.

Hanke, Lewis. (ed.), *Los virreyes españoles en América durante el gobierno de la casa de Austria, Perú Vol. 1*, (Biblioteca de autores españoles, Vol. 280.), Madrid: Altas.

Konetzke, Richard (ed.), *Colección de documentos para la historia de la formación social de Hispanoamérica 1493-1810*, Vol. 1, Madrid: CSIC, 1953.

Loyola, Ignacio de. *Obras completas: transcripción, introducciones y notas de Ignacio Iparraguirre y Candido de Dalmases*, 4 ed., Madrid: Editorial Católica, 1982.

Mateos, Francisco. (ed.), “Primeros pasos en la evangelización de los indios (1568-1576),” *Misionalia Hispanica*, Año 4, Núm. 10, 1947, 5-64.

“Memorial del P. Francisco Burgés, 1708,” Hernández, *Organización*, Vol. 2, 640-658.

Morales, Martín. (ed.), *A mis manos han llegado: cartas de los PP. Generales a la Antigua Provincia del Paraguay (1608-1639)*, Roma y Madrid: IHSI y UPC,

2005.

- Pérez de Tudela, Juan et al. (ed.), *Colección documental del descubrimiento (1470-1506)*, Vol. 1, Madrid: MAPFRE, et al., 1994.
- Recopilación de leyes de los reynos de las Indias*, 4 Vols., Madrid: Ediciones Cultura Hispánica, 1973 [1681].
- Sancti Ignatii de Loyola: constitutiones Societatis Jesu, Vol. 1, Monumenta constitutionum praevia*, Roma: Borgo S. Spirito, 1934.
- Sancti Ignatii de Loyola: constitutiones Societatis Jesu, Vol. 2, Textus Hispanus*, Roma: Borgo S. Spirito, 1936.
- Sepp, Antonio. *Jardín de flores paracuero: edición crítica de las obras del padre Antonio Sepp, S. J., misionero en la Argentina desde 1691 hasta 1733, a cargo de Werner Hoffmann*, Buenos Aires: EUDBA, 1974.
- アコスタ『世界布教をめざして』、青木康征 [訳]、岩波書店、1992年 (José de Acosta, *De procuranda indorum salute*, 1588)。

3. 研究書・論文

- Barnadas, Josep M. "The Catholic Church in Colonial Spanish America," Leslie Bethell (ed.), *The Cambridge History of Latin America*, (Vol. 1, Colonial Latin America), Cambridge, et al.: Cambridge University Press, 1984, 511-540.
- Echánove, Alfonso. "Origen y evolución de la idea jesuítica de Reducciones en las Misiones del Virreinato del Perú: primera parte," *Misionalia Hispanica*, Núm. 12, 1955, 95-144.
- Flores, Moacyr. *Colonialismo e missões jesuíticas*, 2 ed., Porto Alegre: Nova Dimensão, 1986.
- Guy, Donna J. and Thomas E. Sheridan (eds.), *Contested Ground: Comparative Frontiers on the Northern and Southern Edges of the Spanish Empire*, Tucson: University of Arizona Press, 1998.
- , "On Frontiers: The Northern and Southern Edges of the Spanish Empire in the Americas," Guy and Sheridan (eds.), *Contested Ground*, 3-25.
- Hall, Thomas D. "The Río de la Plata and the Greater Southwest: A View from World-System Theory," Guy and Sheridan (eds.), *Contested Ground*, 150-166.
- Hernández, Pablo. *Organización social de las doctrinas guaraníes de la Compañía de Jesús*, Vols. 1-2, Barcelona: Gustavo Gili, 1913.
- Marzal, Manuel M. *La utopía posible: indios y jesuitas en la América colonial (1549-1767)*, Vol. 1, Lima, PUCP, 1992.
- , "La evangelización en América Latina," Franklin Pease y Frank Moya Pons (eds.), *Historia General de América Latina*, Vol. 2, París: UNESCO, 2000, 473-486.
- O'Malley, John W. "The Pastoral, Social, Ecclesiastical, Civic and Cultural Mission of the Society of Jesus," John W. O'Malley, Gauvin Alexander Bailey, Steven J. Harris and T. Frank Kennedy (eds.), *The Jesuits II: Cultures, Sciences, and the Arts, 1540-1773*, Toronto, Buffalo and London: University of Toronto Press, 2006, xxiii-xxxvi.
- O'Neill, Charles E. y Joaquín María Domínguez (eds.), *Diccionario histórico de la Compañía de Jesús: biográfico-temático*, Vols. 1-4, Roma y Madrid, IHSI y UPC, 2001.

- Rabuske, Arthur. "A doutrina do Juli do Peru, como modelo inicial das reduções do antigo Paraguai," *Estudos Leopondenses*, Vol. 14, No. 47, 1978, 41-63.
- R.A.M. "Notas en torno a la historia económica del virreinato del plata," *Revista de Indias*, Vols. 55-56, 1954, 57-68.
- Ruiz Jurado, Manuel. "Espíritu misional de la Compañía de Jesús," José Jesús Hernández Palomo y Rodrigo Moreno Jeria (eds.), *La Misión y los jesuitas en la América Española, 1566-1767: cambios y permanencias*, Sevilla: CSIS, 2005, 17-42.
- Sievernich, Michael. "La Misión en la Compañía de Jesús: inculturación y proceso," José Jesús Hernández Palomo y Rodrigo Moreno Jeria (eds.), *La Misión y los jesuitas en la América Española, 1566-1767: cambios y permanencias*, Sevilla: CSIS, 2005, 265-287.
- Velázquez, Rafael Eladio. "La población del Paraguay en 1682," *Revista Paraguaya de Sociología*, No. 24, 1972, 128-148.
- 石原保徳『世界史への道—ヨーロッパ的世界史像再考—』（後編）、丸善、1999年。
- 小林一宏「イスパノアメリカにおける宣教」、Gustavo Andrade [編]、『イベロアメリカの誕生と形成』、上智大学イベロアメリカ研究所、1992年、27-34頁。
- 「イスパノアメリカにおけるカトリック教会」、Gustavo Andrade・中牧弘允 [編]、『ラテンアメリカ—宗教と社会—』、新評論、1997年、21-41頁。
- 染田秀藤「16世紀スペインにおけるインディアス問題」、大内一・染田秀藤・立石博高『もうひとつのスペイン史—中近世の国家と社会—』、同朋舎出版、1994年、71-152頁。
- 『大航海時代における異文化理解と他者認識—スペイン語文書を読む—』、溪水社、1995年。
- 武田和久「ラプラタ地域とイエズス会布教区—軍務に伴うグアラニーの離散、自立、地域形成への関与—」、上智大学博士論文、2006年。